

牛乳使う新事業に挑戦

年 組 番 名前

オブセ牛乳(上高井郡小布施町)が、新ブランドを立ち上げました。時代の変化やニーズの多様化に対応するために、自社の牛乳を使った加工品を開発しています。地域と共に歩んできた牛乳メーカーの取り組みについて、記事を読んでみましょう。

①牛乳の消費量が減少傾向にある理由を、二つ書きましょう。

②オブセ牛乳は創業時から変わらないやり方として、牛乳をどう殺菌していますか。その方法で生産した牛乳は、大手メーカーの方法と比べて、どんな特徴がありますか。

殺菌方法—

牛乳の特徴—

③西岡幸宏さんは社長就任後に、まず取り組んだことは何ですか。

④西岡さんが新ブランドの設立に挑戦したのは、どう考えているからですか。

⑤あなたの学校の周りや住む地域で、新たな挑戦をしている企業について、調べてみましょう。

この人 この戦略

自社の牛乳を使った商品の新ブランド「オブセ牛乳プレミアム」を1月に立ち上げた。人口減少やペットボトル入り飲料の浸透で牛乳消費量の減少傾向が続く中、チョコレートなど高付加価値商品を展開することで生き残りを懸ける。「時代の変化やニーズの多様化に対応し、おいしく喜んでもらえる商品づくりに挑戦したい」と意気込む。地元食材のブランド化などを

オブセ牛乳 (小布施町)

にし おか ゆき ひろ
社長 西岡 幸宏さん

新ブランド商品展開

牛乳使う新事業に挑戦



手掛けるワイープ(長野市)が協力。第1弾として同月発売したチョコレート「小布施ミルクシヨコラ」は、生クリームの代わりに自社牛乳を使った。製造は須坂市のチョコレート専門店に委託。温めた牛乳に溶かして飲むことができ、「牛乳のさま

のため、120〜130度で数秒殺菌する超高温殺菌が主流。乳脂肪率など成分に違いはないが、自社の方法は濃い味わいを引き出せるという。

岐阜市出身で、岐阜県職員だった。転職は7年前。妻由佳さんの祖父母が創業したオブセ牛乳の後継者がおらず、廃業すると聞いた。牛乳は、東北信地方のスーパーに出荷する他、上高井郡小布施町、高山村の保育園、幼稚園、小中学校の学校給食にも提供。「地元の皆さんに愛されているのにもったいない」との思いに駆られた。小布施町は観光地として知名度もあり、「地域に根付いてきたからこそ、チャンスがあるかもしれない」。悩んだ末、2016年に同町に移住。17年に社長に就いた。まずは会社の信用度を高めるためにホームページを制作。牛乳により愛着を持ってもらおうと、三日月と天使の自社ロゴマークをあしらったマグカップやトートバッグなどのグッズも作った。18年12月には、自社EC(電子商取引)サイトを設け、ブランドを前面に打ち出して牛乳や各種グッズを売り出した。

20年8月期の売上高は約1億6千万円。「今後20年、30年とオブセ牛乳を作り続けることが使命」と考えている。そのためには、牛乳以外の新事業が必要だと挑戦したが、新ブランドの設立だった。自社牛乳を使ったプリンやアイスクリームの開発や、これら加工品の製造も模索する。「地域と共に歩んできた小さなメーカーの牛乳の可能性を追求したい」。52歳。

牛乳使う新事業に挑戦

解答例

年 組 番 名前

オブセ牛乳(上高井郡小布施町)が、新ブランドを立ち上げました。時代の変化やニーズの多様化に対応するために、自社の牛乳を使った加工品を開発しています。地域と共に歩んできた牛乳メーカーの取り組みについて、記事を読んでみましょう。

①牛乳の消費量が減少傾向にある理由を、二つ書きましょう。

【解答】 人口減少やペットボトル入り飲料の浸透

②オブセ牛乳は創業時から変わらないやり方として、牛乳をどう殺菌していますか。その方法で生産した牛乳は、大手メーカーの方法と比べて、どんな特徴がありますか。

殺菌方法— 80度の低温で15分間じっくり殺菌する

牛乳の特徴— 乳脂肪率など成分に違いはないが、自社の方法は濃い味わいを引き出せる

③西岡幸宏さんは社長就任後に、まず取り組んだことは何ですか。

【解答】 会社の信用度を高めるためにホームページを制作した

④西岡さんが新ブランドの設立に挑戦したのは、どう考えているからですか。

【解答】 今後20年、30年とオブセ牛乳を作り続けることが使命

⑤あなたの学校の周りや住む地域で、新たな挑戦をしている企業について、調べてみましょう。

【解答】 略